



AJRL NETWORK

Association of Japanese Residents in LAO P.D.R.

名誉会長就任のご挨拶

日本人会名誉会長 引原 毅(在ラオス日本国大使)

ラオス国日本人会の皆様、はじめまして。この12月に着任しました引原毅と申します。この度、ラオス国日本人会の名誉会長を仰せつかることとなりました。何卒よろしくお願いいたします。

ラオス着任前は、外務省本省で総合外交政策局軍縮不拡散・科学部長を務めておりました。セネガル、フランス、韓国、ロシア、米国などでの海外赴任経験もありますが、ASEAN 諸国への赴任は今回が初めてです。ラオスに来る前、「ラオスに住めばみんなラオスが好きになる」と多くの方に教えられていましたので、着任を心待ちにしておりました。実際に当地に来てまだ三週間余りですが、本当に聞いていたとおりだと思っています。

ラオスにとって2016年は、ASEAN 議長国という大きな付加価値のつく年になります。ASEAN 首脳会議や関連大臣会合などの大きな国際会議が多数開催され、世界中からラオスが注目されることとなります。そのような重要な時期に、ラオスに着任したことに身が引き締まる思いです。

大使館での業務を遂行する上で、私は次の3つの方針を掲げています。第一に、日本とラオスの相互関係を明確に意識することです。日本にとってラオスは外交上どのような存在であるのか、ラオスにおける日本の強みとは何なのか、両国の友好関係が両国にとってどのような利点をもたらすのか、様々な要素があると思います。そういったお互いの関係を常に意識して仕事に臨む必要があると考えています。

第二に、大使館の業務の一丁目一番地は、邦人関係業務であるという意識を常に持つことです。日系企業の進出のお手伝いや領事業務など、大使館はラオスを訪れるまたラオスで活躍されている邦人の皆様への支援



を常に第一に考えていきたいと思っています。

そして最後に、オール・ジャパンで業務に取り組むということですが、ラオス在留邦人の数は決して多くはありませんが、日本人会、JICA、JETRO、商工会と様々な邦人組織が存在しています。それぞれの組織の目的を追求しつつ、お互いが協力することで、より高い成果を各々が得られると考えています。

これら業務を遂行する上での方針は、日本人会の名誉会長としての心構えでもあります。オール・ジャパンとして日本のプレゼンスを高めていくため、日本人会名誉会長として、大使館と日本人会の橋渡し役となり、ラオスで活躍する様々な人、組織間のネットワークを強化していきたいと思っています。また、日本人会の皆様との交流を深め、邦人の皆様の置かれている現状を知ることが、大使としてまた日本人会名誉会長として、邦人の皆様のお役に立つための第一歩と考えています。これからも大使館として日本人会の活動をできる限り支援して参りますので、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

2015年も残りわずかとなりました。ラオスで活躍される皆様、どうぞ良いお年をお迎えください。来年、日本人会のイベントで皆様にお会いできることを楽しみにしております。

本号内容

- (1) 巻頭言(新名誉会長挨拶)
- (2) 活動報告(イベント)
- (3) 活動報告(カルチャークラブ)
- (4) 日系企業便り
- (5) 最近の JICA の動き
- (6) NGO/国際機関紹介
- (7) 大使館便り

活動報告(イベント)

日本人会理事会では、会員の皆様の親睦を深めるため、これまで様々なイベントを開催してきました。その概要について報告いたします。

7月以降の日本人会イベント

- 7月 運動会
- 9月 遠足会(ナムグムダム見学)
- 11月 Jfes 出店、チャリティーバザー
- 12月 クリスマス会

運動会

7月11日、武道センターにおいて日本人会主催の運動会が開催されました。当日は、日本人約30人、ラオス人約50人の合計約80人が参加し、赤、白、青、緑の4チーム分かれて点数を競い合い、気持ちの良い汗を流しました。

今回の運動会には、てっちゃんねつとの協力の下、ピエンチャン高校の生徒が大勢参加してくれました。運動会の種目は、大玉転がし、ムカデ競争、障害物競走、玉入れ、綱引きであり、ラオス人にとってはあまりなじみのない競技ばかりでしたので、ルールの説明にも苦労する場面が何度もありましたが、大きな怪我もなく無事に運動会を終えることができました。ラオス人の子供達が目を輝かせて心から競技を楽しんでいる様子に、彼らの素直さ、純朴さを感じ、心が和んだ一日でもありました。日



綱引きはとても盛り上がりました！

本の子供達も、ラオスの生徒と協力して、勝利を目指すことで、ラオス人への理解が深まったのではないのでしょうか。

今年から日本人会には、準会員としてラオス人も入会することが可能になっています。今回の運動会のように、ラオス人の参加するイベントが盛り上がり、準会員数が増加し、日本人会の目的である日ラオ親善がより深化していくことを期待しています。

遠足会

今年の第2回目の遠足会は、ナムグムダムの見学に行きました。ナムグムダム第一発電所は、日本などからの支援で建設されたもので、1972年に稼働を開始し、これまでラオスの経済・社会発展に大きな貢献をしてきました。ラオスにおける日本の支援を紹介する際、必ずといっていいほど名前の挙がる、ラオスから非常に感謝されている施設です。

今回の遠足会は、補習校と共同で開催したこともあり、大人約60人、子供約30人と多くの方に参加していただきました。

ナムグムダムは、堤高 70m、堤長 468m、貯水池面積 370km²、貯水量 70億 m³の大規模なダムです。貯水池の面積は非常に大きいにもかかわらず、堤体が比較的小さいのがナムグムダムの特徴で、小さな堤体で大量の貯水が可能で非常に経済性の高いダムとして評価されています。



ダムの管理棟の前で記念撮影

遠足会当日は、発電所横にある講義室で、ダムの担当者から、ナムグムダムの歴史、構造などについて説明を受け、その後、ダムの管理設備や発電設備を見学しました。非常に大きなダムであるにもかかわらず、ダムのゲートの操作や水位などの各種データなどは、コンピュータで集中管理・操作が可能となっており、常駐の管理者も数人と効率的な運営がなされていることに参加者も驚いている様子でした。発電設備を見学した後は、ダムの堤体の上に移動しました。ナムグムダムでは、雨期になると貯水池の水位が上昇し、日本の松島のように、多くの小島が点在する美しい景色が現れます。堤体の上は、通常では立ち入ることのできない区域です。皆さん、普段見ることができない堤体からの貯水池の景色を楽しんでいました。

その後、湖の景色を一望できるダム湖畔のレストランに移動し、綺麗な景色を見ながらおいしいラオス料理を楽しみました。

Jfes 出店とチャリティーバザー

今年は、日ラオス外交関係樹立60周年に当たる年であり、日本とラオスの友好関係と相互理解を一層促進することを目的に、第3回ジャパンフェスティバル(Jfes)が、11月13日から15日にかけてビエンチャンで開催されました。日本人会も主催団体の一員として、Jfesを盛り上げるために、11月14日と15日に、かき氷、綿あめのブースを出店しました。また、14日には餅つきを行い、15日には日本人会の恒例イベントであるチャリティーバザーも開催しました。

各ブースとも大盛況でしたが、やはり暑いラオスだからなのか、かき氷の人气が特に高く、予想以上の売り上げがありました。想像以上の大盛況振りに、ラオスでのかき氷販売の商機を感じたのか、かき氷器をどこで買ったのかといった問い合わせも何件かあったほどです。

また、バザーの商品を見事完売することができ、その収益の半分は日本語補習授業校に、残りの半分は教育現場で活躍するJOCVの活動に寄付しました。



大人気のかき氷ブース

日本人会のブース出店にあたっては、会員の方々のみならず、非会員の方にもボランティアでお手伝いをしてもらいました。また、ラオス国立大学で日本語を勉強している学生にもボランティアとして協力してもらいました。ボランティアの学生達はとても真面目で、日本人の理事達以上に一生懸命、かき氷作りや綿あめ作りに取り組んでくれました。収益面だけでなく、参加者の親睦が深まったことが今回のイベントの大きな成果であったと理事一同感じています。ご協力してくれた皆様に対し、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

クリスマス会

12月5日、ラオプラザホテルにおいて、毎年恒例のクリスマス会を約150人の参加を得て開催しました。今回のクリスマス会では、ラオプラザホテルのおいしい食事を食べながら、補習校の生徒による演奏会、佐藤理事による手品披露、サンタによる子供達へのお菓子プレゼント、ビンゴゲームなどを楽しみました。

補習校の演奏会では、ジングルベルなどクリスマスに

ちなんだ3曲が披露されました。授業の合間など、短い時間の中で、一生懸命練習してきた成果が表れていました。

クリスマス会のクライマックスは、なんと言っても豪華賞品の当たるビンゴゲームです。子供達はたくさんのおもちゃが並んでいる様子を見て、目を輝かせていましたが、それに負けじと、大人達もタブレットや航空券などの賞品に目をぎらつかせ、ビンゴの出玉に一喜一憂していました。

今年も25社に上る協賛企業様のご協力で参加者全員にクリスマスプレゼントを差し上げることができました。ご協力に改めて感謝申し上げます。



補習校の生徒による演奏

今年度も理事一同頑張っ、できるだけ多くのイベントを開催しようと取り組んできました。理事の活動はすべてボランティアなので、仕事の合間や休日を利用しての準備となかなかはかどりませんでした。が、会員の皆様に日本人会に入っていて良かったと感じていただけるよう努力を重ねました。

残すイベントはあと一回で、2月に開催したいと計画しています。皆様のまたの参加をお待ちしています。

活動報告(カルチャークラブ)

イベントに加えて、日本人会では、各分野の専門家をお招きしてカルチャークラブを開催しています。今年度のカルチャークラブはこれまで4回開催されています。

6月 ラオス民話について

6月には、NGOの安井清子様によるラオスの民話に関する講演がありました。文字を持たないモン族の民話を書き起こし、継承する活動についての苦労話などをお話しいただきました。著書の紹介では「モンの民話—ラオスの山からやってきた」「空の民(チャオファー)の子どもたち—難民キャンプで出会ったラオスのモン族—」など、ラオスやモン族に関する数多くの執筆について紹介いただき講演終了後に直接販売もしていただきました。また、その活動の中では、「ラオスの山のこども文庫基金」を創設し、山岳民族であるモン族の子供達のための図書館の運営もされています。(ビエンチャンにも子どもの絵本図書館があります)

7月 感染症・マラリアについて

7月は、JICA 専門家石上盛敏様によるラオスの感染症・マラリアについての講演でした。熱帯には常にマラリアやデング熱の危険性が潜んでいること、さらにはラオスで製造されている加工肉にも寄生虫の危険性が潜んでいることなど生々しい写真を見ながら講演をしていただきました。講演では、どのようにすればそれらの危険から身を守ることができるのかについてもアドバイスをいただきました。



石上専門家による講演会の様子

最近の JICA の動き

1965 年に青年海外協力隊の初代隊員がラオスに飛び立って以降、青年海外協力隊事業は本年度で発足 50 周年を迎えます。この度、10 月 15 日(木)にビエンチャン市内の国際協力・研修センターにおいて約 180 名の参列を得て、ラオス政府と JICA 共催による青年海外協力隊派遣開始 50 周年式典が開催されました。

式典は、ソムディー計画投資大臣からの祝辞で開会し、半世紀にわたり地方農村部においてすすめられた農業をはじめ、保健、教育、今日では IT からスポーツまで多岐にわたる分野で同国の発展に資してきたことに触れ、今後の SDGs 達成にむけた協働への決意が述べられました。岸野博之前在ラオス日本国大使からは、日本ラオス国交樹立 60 周年の本年に協力隊派遣 50 周年を記念することへの祝意、またラオス全土および世界各地で JOCV 経験者が活躍していることへの高い評価が述べられました。次いで柳沢 JICA 理事より、若い青年海外協力隊員を温かく受け入れ支援いただいたラオスの全ての人々への深い謝意と、特に教育・保健分野における貢献例を披露しつつ、今後一層のラオス側の支援を依頼しました。

1970 年代初頭に派遣された高畑恒夫氏の祝辞では、自身が派遣された時代のラオスはベトナム戦争に伴う爆撃を間近に感じる激動の時代であったため、今日の平和と発展を特に喜ばしく感じる事等が述べられました。半世紀近くを経て、当時と現役のボランティアが、ラオス側出席者と語らう風景は、初代派遣国に相応しい歴史の蓄積、そして将来のボランティア事業にむけた原動力となる JICA 事業の貴重な財産を体現するものとなりました。



NGO/国際機関紹介

ISAPH ラオス事務所 武繁 政昭さん

長年にわたり国際協力事業を行っている社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院を中心とする聖マリアグループが、草の根レベルでの国際協力をさらに推進させるために 2004 年に特定非営利活動法人 ISAPH (International Support and Partnership for Health) を設立しました。ラオスでは、2005 年からの約 10 年間、ラオス中部のカムアン県セバンファイ郡において 5 歳未満児と母親の健康増進を目的にプロジェクトを実施してきました。県や郡保健局職員と共に毎月、乳幼児の発育測定 (Growth Monitoring) と妊産婦健診を実施し母子の健康状態を把握するとともに、栄養状態の改善に向け「分かりやすく、楽しく、興味を持てる」健康教育の実践にも努めてきました。その結果、5 歳未満児の低体重児の割合の減少、妊婦健診参加率の増加、更に以前多発していたビタミン B1 欠乏症による乳児死亡は 2013 年以降見られていない、といった成果があがっています。

2015 年は、セバンファイ郡保健局の活動をフォローしながら、カムアン県内の他の郡での母子保健活動の準備を進めています。ISAPH 事務所はカムアン県タケクにあり、ビエンチャンで日本人会の皆様と接する機会も限られておりますが、タケクにお越しの際には、是非お声がけ頂ければ幸いです。



大使館便り

経済・経済協力班 北川 陽介

12月に新大使が着任し、大使館職員も気を引き締め直して業務に取り組んでいます。大使館の業務の一丁目一番地は、邦人関連業務です。そのためには在留邦人の皆様と大使館の相互理解が不可欠であり、大使館の業務を皆様に知っていただくことも重要です。そこで、今回は、知っていそうで知らない大使館の業務について、私見を交えながら簡単に説明したいと思います。

大使館には、館内業務のとりまとめを行う総務班、大使の業務補佐を行う儀典班、ラオスの政治情勢の分析や日本とラオスの政治交流を担当する政務班、日本とラオスの文化交流を担当する広報文化班、ビザやパスポートの発給を行う領事班、さらに経済・経済協力班、警備班、医務班、官房班があり、現地スタッフを含め総勢50名以上のスタッフが働いています。私が所属する、経済・経済協力班では、日系企業のラオス進出の支援やODA事業を担当しています。特に私は、JICA事務所と協力して、ラオス政府からのODA事業に関する要望をとりまとめ、外務本省に報告したり、農業関係のプロジェクトを形成したりする仕事をしています。当館は、ラオスが発展途上の国ということもあり、経済協力分野が大使館業務に占める割合が比較的大きな大使館の一つです。

大使館で働いている職員のバックグラウンドは様々です。ラオス語の専門スタッフとして、ラオスを中心に働くスタッフもいれば、様々な国や国際機関で働いてきたスタッフもいます。私自身は、農林水産省からの出向者ですが、他にも国土交通省、総務省、宮崎県庁からの出向者もいます。過去にJOCVとしてラオスでボランティア活動をしていた職員も何名か働いています。外務省に限らず全ての省庁からの作業依頼があり、国際協力の分野も、インフラや農業など様々な分野がありますので、多様なバックグラウンドを持った職員が必要となります。

大使館が業務で関係する邦人の方々のバックグラウンドも様々です。日本から政治家の訪問も多くあります。特に、来年はラオスがASEANの議長国ということもあり、日本から閣僚クラスの来訪も多く予想されます。日本か

らの出張者が円滑にラオスで業務を行えるよう、特にロジ面での支援をするのも大使館の重要な業務です。また、建設、金融、製造業、農業などの分野で、ラオスに進出を考えている日系企業の方々や、広報・文化事業に関係する方々とも一緒にお仕事をさせていただいております。大使館からNGOの活動に対する支援も行っていますので、NGO関係者の皆様との関係もあります。このように、幅広い人的ネットワークを有しているのが大使館の一つの強みであり、その強みを邦人の皆様に還元していくことが大使館の役割でもあります。

大使館では、在留届けの提出やパスポートの発給といった領事業務以外にも様々な業務を行っていますので、お役に立てそうなことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

編集部より

ラオス国日本人会会報誌「アジャレラネットワーク」では、皆様からの投稿をお待ちしております。

会員の皆様に知っていただきたいことがありましたら、是非ご一報ください！

会報誌担当 北川 陽介

法人会員

法人会員は日本人会の趣旨に賛同し運営にご協力いただいている企業です。
ここでは、今回掲載を希望された法人会員のロゴをご紹介します。(50音順)



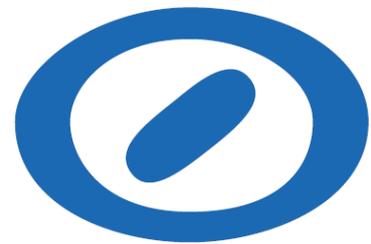
イッサラ幼稚園



コマツ ビエンチャン事務所



ITALIAN TOMATO ASEAN



清水建設 ビエンチャン事務所



じやぱん亭



豊田通商株式会社



World's Leading Geospatial Group

パスコ ラオス事務所



マルハンジャパン銀行ラオス